



東部教育事務所社教便り『社窓No.57』

東部教育事務所



令和6年度 高知県公民館研究大会 (安芸地区大会)

東部教育事務所(文責:尾知)

安芸市矢ノ丸1-4-36

TEL:0887-34-3591・FAX:0887-34-3592

E-mail:310304@ken.pref.kochi.lg.jp

令和6年9月4日(水)に室戸市保健福祉センターやすらぎにて標記の会が開催され、県内の公民館関係者75名の参加がありました。この大会では、「つながりが大事!災害に強い地域づくりと公民館の役割」をテーマに行われました。起こり得る南海トラフ地震をはじめ、水災害などへの備え、地域住民の拠点施設、そして避難所でもある公民館で、日ごろの「備え」を意識した活動を通じ、次世代交流、地域交流、生涯学習や社会教育へもつながる持続可能な幅広い振興を目的に、公民館運営の在り方を研究する趣旨があります。

土佐室戸勇魚太鼓の力強い演奏を皮切りに会が始まり、伝統的な演奏に参加者は心を奪われていました。



【基調講演】「防災に最も大切なものは!？」

防災士・社会福祉士 森 大樹 氏

基調講演として、防災士・社会福祉士である森大樹さんからお話を聞きました。数々の被災地に復興支援で赴かれた経験を基に防災で必要なものについて教えていただきました。クイズを交えて被災地の様子を分かりやすく説明してくださったので、分科会での協議につながり、大変盛り上がりました。

「防災に最も大切なものは何だと思えますか?」それはズバリ「地域の力」です。

みなさんのイメージですが防災の3要素で自助・共助・公助の割合が公助に重きを置いているように感じています。本来は、自助・共助に重きが置かれているのが理想です。それを強く感じたのは、東日本大震災で被災した岩手県の大船渡市末崎町西館です。この地域では、日々の行事などでのつながりがあり、コミュニティがしっかりとできていたことで被害が最小限に抑えられていました。例を挙げると、「逃げろ」等の声がかけて助かる可能性が高くなります。

また、この地域は復興の際にも協議会に住民が参加して自分たちで新しい町づくりを進めていたので、復興後もコミュニティが保たれています。

防災に地域の力は不可欠です。一方で、少子高齢化・過疎化・社会の変化とともに地域の力はどんどん弱くなっています。防災は、どの世代にも共通の課題です。防災を一つの手段として公民館活動・地域づくりを行うことによって、防災力が上がり、地域の力も高まるのではないのでしょうか。みんなで一緒に考え、取り組む「過程」が非常に大切です。少しずつ進めていきましょう。

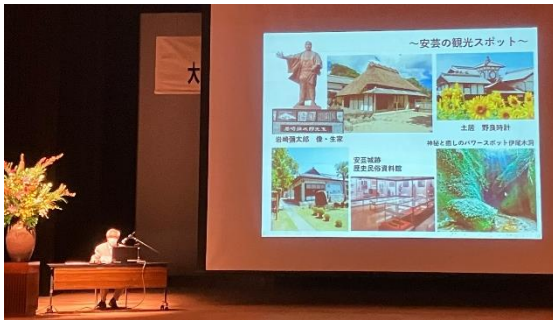


【実践発表】「地域で学ぶ防災対策と危機管理 part2」

安芸市立伊尾木公民館長 小島 峰松 氏

地域実践として安芸市立伊尾木公民館長の小島峰松さんが自主防災の視点で事例を紹介してくださいました。

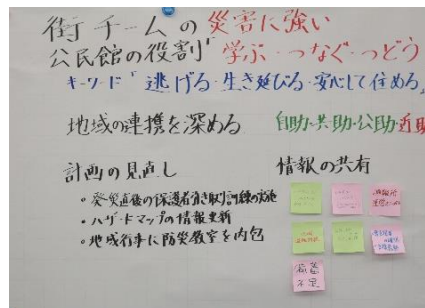
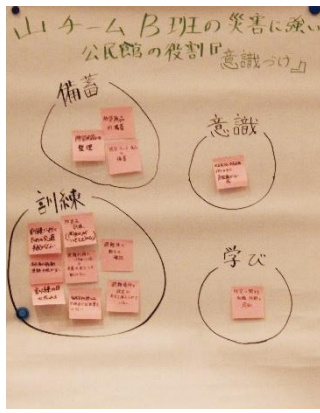
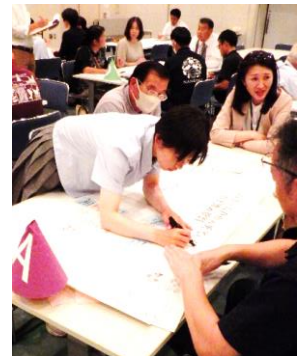
伊尾木地区は、小学校を中心に自主防災組織を立ち上げています。防災研修や避難訓練をいろいろな状況を想定して取り組んでいます。住民からの声で避難路等も整備され、安心できる環境が整ってきています。しかし、無関心層の人への働きかけの工夫や避難場所の改善などの課題があります。コロナ禍を経て取組を継続しつつ、住民が安心できる整備（避難路にあるブロック塀をフェンスに変える、避難所に点とベースを作成等）を続けています。



まとめとして、地域あつての学校、学校あつての地域を合言葉に「安心できる学校」・「安心できる地域」を目標に今後も取り組んでいきたい。南海地震の発生率は高くなり、まだまだ十分でない、避難タワーや避難場所の整備を、行政と協力し取り組んでいきたい。

【分科会】テーマ：つながりが大事！災害に強い地域づくりと公民館の役割とは

この後、参加者は分科会に分かれて、「つながりが大事！災害に強い地域づくりと公民館の役割とは」について協議しました。分科会には、高校生も参加しており、幅広い世代で意見交流ができていました。どの分科会も各公民館ごとにある成果や課題から防災に向けた公民館としての役割を考えることができました。



各チームでまとめられたシートのご紹介です。

この大会を通して、災害時だけでなく、各地区での日々の「つながりづくり」が重要だと感じ、地域の公民館としての役割を再認識できたことでした。本日協議した内容を各公民館に持ち帰って、防災の意識を高められるようにしていきたいですね。

来年は南国市で研究大会が開かれます。ご参加のほど、よろしくお願いいたします。